

永平寺門前：道元禅師御歌碑の内容②

#4

4 番目の歌碑はギャラリー寧波のすぐ西の古い街灯の隣にあり、日々の修行の心を詠んだ和歌が刻まれている。

守ると思わずながら小山田のいたずらならぬかかしなりけり

山の中の小さな田んぼによやく立っているように見える案山子だが、その重要さはわかりにくい

説明：案山子は、昨日も一昨日も同じことを単に行っているだけで、実際には何かをやっているようには感じられない。しかし、野原を見守ることで、案山子は自分の重要な役目を果たしている。同じことが私たちの日常生活にも当てはまるのである。

#5

5 番目の歌碑は、永平寺の「ポケットパーク」にある。ここはベンチと親しみやすいお顔で子供たちの守護仏である地藏菩薩の像がある芝生の小さな公園である。

この経の心を得れば世の中のうりかう声も法をとくかな

法華経の本質を理解すると、賑やかな市場の騒音も仏の教えに聞こえるようになる。

説明：この和歌は、仏の教えを修行するために必ずしも僧侶になる必要はないという重要な暗示を伝えている。普通の人でも、自分が選んだ職業で一生懸命働きながら、お経を暗記して、その意味を理解できるのである。

#6

6 番目の歌碑は永平寺へ進み、ポケットパークの向かいの通り沿いにある。

いたづらに過ごす月日は多けれど道をもとむる時ぞすくなき

ぼんやりと目標を持たないで過ごす時間は多いが、求める道を探す時間はほとんどない。

説明：欲望と気晴らしに満ちた世界では、禅の実践に専念するのは難しいかもしれないが、どんなに忙しく過ごしていても、毎日心を込めて努力することが大切なのである。